繪本巴女一代記

全五冊合綴壹卷

南杣笑梦之滿人作

一陽齋豐國圖画

西宮春松軒藏板

文化四年

へ13
2789

へ13
2789

特
へ13
2789
遠
1961
120
ヲ改メ

巴女一代記 初由

戯作者 仙笑楚満人

朝日将軍義仲朝臣の忠臣巴女ご武勇を尊ぶるに
依て宋書の中山陵に遠ざむすめしてそ今歩極口もち味あり
ゆてその母夢よ同じ生れしの海あのやとりを乗りりふ白波の
老翁さいぜんとして出来うう告くくちんぢふ雄玉城
さいくべしとその名に倣うよかく書き武勇天下にこれあるべしと
いい捨てゆうの老翁さまを色て消えるよへる書ちゆちに逆流ち
捨てて涙しとの涙なの袂へうとそゆめさあ十二月みて
保元元年五月九日ゆ誕生も豆腐油よへとゆめそ冷ゆうけよう
ゆうとなつく男子の中の女子ゆうれいゆ父母のてうこの、濃くうだせい
てうて赤ぐくなるびるきゆ美人ゆ
るる上のうれちや海うの横ちてそうちりのうへてのたやうさ
国中にあるゆるとものうりちる

へ13
2789

巴女一代記初由

戯作者 南仙笑 楚満人

朝日将軍木曾義仲朝臣の忠臣巴女御武勇を尊ぶるに
未曾の中山極に無遠ゞむすめ今世極口味あり
勇てその母夢より同じ生れしの海あのやうを尊ぶる白波の
老翁おのれ〳〵せんぐして出来るう若くいくちんぢふ雄武城
さぶ〳〵しその名に恥よかゝ母武勇天下にうこれあるべしと
いひ捨てゆるゝ老翁生れて巴と名付て巴女と呼る者ちやうに逆波ち
母ちやて巴女涙〳〵その涙古の袂ふくるとそゆめさめ十二月みて
保元元年五月九日に産生も豆腐油よりゆめそ冷るけうう
ようとなつく男子の中の女子なるれば父母のてうこの、嬉しうこれ世い
てうてきぐるくなるびるきを美人ようてそのかを百引を取りとて
るとのくれちや治らの推去てそうちりのうりてのたやうさ
国中にあるゝ盛ものうりまう

畠山庄司

楠六郎
今井四郎

林六郎
小太郎

行家
仲

仲
ゆきちら
うしまる

巴女

桶六郎

十

十一

学明

巴女

仲
ひきのひろ
馬太郎

巴女

ゆきい丞
十六

大串ゆく
あけくれ

あんや
小てん

巴女

重忠

巴女
兼平

義仲
兼平

内田三郎

よ仲

巴御前
戯作 南仙笑 楚満人
豊國画